

## 令和2年度第1回東播磨新地域ビジョン検討委員会議事録

1 日 時 令和2年6月17日(水) 13時半～16時

2 場 所 加古川総合庁舎2階 会議室

3 参加者 16名(一般8名 行政8名)

4 内 容

(1) 東播磨県民局長 挨拶

(2) 自己紹介

(3) 委員長選出

委員) 地域の特徴を生かしたビジョンというものは小さなエリアで考えること、そこから得られる意義というのが、ソーシャルディスタンスや新しい生活様式にもかかるのではないか。そういう視点を持って、皆様の議論をまとめていきたい。

**事務局【資料1説明】**

委員) 各自治体で住民調査による様々な指標があり適用出来る。全部県の指標に頼る必要はない。

委員) まちづくり指標については、定期的に住民アンケートを取っている。播磨町の規模で3千人の方にアンケートを取っており、約40パーセントの方の回答がある。

委員) 当市においては、本年度総合計画の見直しを予定していたが、コロナの影響で1年延びている。昨年度住民アンケートを取っているので指標はできる。

委員) 基本的なところを2点確認。

1つは、資料1で『展望年次』が2050年となっているが、とりあえず賞味期限というかいつまでぐらいの計画なのかがわからない。

それから進め方で、前回の『改訂』では、書かれていることの検証をまずやった。前回の検証作業みたいなものはどこかのタイミングで行うのか。それとも全く新しいビジョンなのでそういうこと(検証)はしないで、一からヒアリングなどで議論するのか、どちらでしょう。

事務局) 今回2050年を展望しつつ、想定するのはおそらく2030年頃を想定する。現行ビジョンの想定年次に相当する新ビジョンの目標年次の設定については、『今後検討』するとなっている。

**委員)** 30年後です。他の県でもやはり2050年でビジョンの策定が進んでいる。やはり30年後を目処にこれからのビジョンを考えていった方がいいのではないか。

**事務局)** いずれにしても本庁に確認。

**委員)** 第1期では将来的に理想を求めてこんなことが出来れば良いものを盛り込んだが、実際、県民局の行動プログラム等、あと、市民県民の方、いろいろな方がいるビジョン委員会で出来ることというのは多分得意分野があるので限られている。こういうことはやりづらいが、こういうことはやっぴいこうという風にプログラムの順位を書いた。こういう作業をやっておかないとビジョン委員会の活動のスタンスが定まらない。出来もしないことをたくさん書いても仕方がない。こういう指標を振り返る質問がないかということをお願いしています。数字の確認だけではなくて。それが県民局の役割、市民が二年交替でやるというビジョン委員会の特質も踏まえて。

**事務局)** ヒアリングの予定だったところを（コロナのため）アンケート調査に変えて5月ぐらいから依頼中。

**委員)** そういう辺りをベースにして今後は、ビジョン委員の皆さんと議論が重ねられたら。

ただ、今は企業の情報が非常に入りにくい環境下にあるので、その点をどうフォローしていくかというのをこれから十分考えていきたい。いい計画にしていきたい。

**委員)** 東播磨で暮らす人たちが安全で、安心して暮らせるように誰もがイキイキと暮らせていくような未来になってほしい。これからいろいろな人たちの意見を反映出来れば。そのために最大30年ぐらいのことを考え、今18歳の高校生たちが48歳になり中堅として頑張っておられるような年になれる。そういうことも踏まえて、若い方からもご意見をお伺いするような機会をたくさん作られたら。

**委員)** ビジョンは、作るということだけではなく、みなさんに知ってもらうということが大切。いろいろな人の意見を反映することとその後ビジョンが出来た時に、どういう形でみなさんに知っていただくか。東播磨に暮らす人がビジョンという目標を持って活動することを理解してもらえるように。

**事務局)** 行政の悪いところで、作ることに一生懸命になってしまい、作ったあとにPRも何もしない。

委員) 作る課程を公開するというのもあった筈…作る課程もオープンってことが大事ですよ。

委員) 2050年のふわっとした話を公開というのは難しい。提案募集ぐらいでは出来ないのでは。もし学生さんたちがたくさんいらっしゃるようだったら、私たちが広報するのではなく、彼らに広報してもらおう。

ここに当番で聞きに来てレポートという形で出すというのはありでは。

委員) 私も、第9期ビジョン委員の活動をしている中で、ビジョンがあまり周知されていないということ。住民の方が参画して、自分たちが主体になって動くという動きがこのビジョン委員会での役割なので、そういうところを評価出来るような。自分たちの意見が形になり、自分たちが地域のために何か出来るということを増やしていけるビジョンにしたい。

委員) 今、聞いているのはちょっと進め方について皆さんにご意見を伺っているところですが、事務局からいただいたのは非常にオーソドックスというか、表現悪い言い方をすれば、計画を作るにあたっては非常に通常のやり方です。

まず現状を把握して、課題を見出して、今後の将来展望を踏まえてビジョンを作っていくというパターン。このパターンで進めていくにしても、もう少しダイナミズムを持っていけないかのご意見を皆さんから聞いているところですが。

委員) 展望年次2050年というのがすごく先なような気がする。それを展望しておくことはすごく重要ではあるが、なかなか住民のみなさんに乗ってきてもらうようなスパンっていうことを考えるとかなり捉えどころがないところがある。

委員) 2050年のことについては、また本庁の方にご確認いただくこととして、ビジョン委員会がなかなか知られていない理由は捉えどころないことが原因かもしれません。捉えどころがない、そういうふわっとしているところをこれから新しいビジョンを作っていくなかで解決していくのがいいかもしれない。

委員) 改定時は、殆ど毎日つめて、文章をつくる時は別のところで、審議するときは全員でやってきた。そこで意見を出してやっていく的感覚。今回の場合は地域が大きいから、3市2町とも新しい総合計画の策定にかかっている。各審議委員のメンバーに集まっていただいて、明石から見た東播磨はどうか。播磨町から見た東播磨はどうかと聞きして付け加えていく。

新しい一面や記憶に残るかもしれない。それを3市2町で一括してやるなど。

委員) 進め方で、もう少し一般データからや市町からのデータなども集めること。

それから意見を高校生と大学生、それに加えてアンケートを取られる…瀧本

先生がおっしゃったように、通勤者だとか市町の審議委員とか可能であれば、広げた形で。現状というよりは潮流になる。

この地域の潮流ですね。世界の潮流じゃないかもしれない、……わかってきたら面白いかなと思います。

今のアンケートを見ていても、外国人の数が増えている。これはもう全体でも出ている、加古川でも多国籍化も進んでいる。これは稲美町でも播磨町でも出ている。

要は、全部のことが世界的にもグローバル化しているとはいっても、こういう地域ならではの並びを浮かび上がらせるものも出ていたと思うので、そういうのを拾っていけば地域に限定するだけでなく、方向性というか、良い方向になると思う。出来る限り聞けるところから聞く。少し増やしていかないといけないし、市や町からもこのタイミングでちょっと聞いてもらってよというのがあれば是非ともご紹介いただいたらとも思いますが、本当に面白い…です。世界の潮流というよりむしろ東播磨の地域のダイナミズムな潮流というものが掴めればかまわない。

2050年というのも雲を掴むような話ではあるが、30年ぐらいで周期は変わるので、なんとも言えないところはある。少なくとも今の潮流が10年続くことは間違いないと思うので、その辺りをやられた方がいい。

委員) 現場で活動している人は、4年5年ぐらいの感覚しかないと思うので、そこから2050年をどうやればいいのかちょっと。離れ業。

事務局) 今気になることなど、問題意識や課題について、あとは過去未来の潮流や環境変化について、あとは未来に繋がるポジティブな活動についてお聞かせくださいなど、漠然とした感じのアンケート内容です。

委員) 未来の話ですね。

委員) 今と比べて30年前で何が違うかと考えてみると…

委員) 何が違うでしょう。逆に。

委員) 前へ進んだと思いますね。車なんかも変わりましたね。

委員) 環境の問題とか。

委員) 自動運転が出てきていますし。

事務局) 外国の人なんかが増えてきた。

委員) 時代は人口減少ですから、高齢化が40%になります。そういう社会に向かっていく中で、我々がどういうことが出来るかっていうのをビジョンで問わ

れていくことになる。

**委員)** 今ちょっと逆に団塊の方は前期高齢者なので、後期高齢者は減っていくでしょうし、そういう人口の予測はつくけれど、経済の予測と社会予測はなかなかつかない。

進もうと思って進められるのは携帯電話ぐらい。例えば飛行機でアメリカ行く時間はあまり変わっていない。今と30年前と。ヨーロッパへ行くのも。考えてみたら携帯電話とか通信とか以外はそんなに変わっていない。

**委員)** 生き方が変わってきている。

例えば今まで周りになかったコンビニがすごく増えて、マンション等で一人暮らしする男性が増えている。加古川市でいうと人口は減っているが、世帯数は増えているというような状況。

**委員)** いちビジョンの話がどこまでいけるのか、アダプテーションとして、とにかく少子高齢化のために工夫が出来るかということはビジョンにはすごくなじみやすいが、出生率上げるみたいな話までなじむのかどうか。

**委員)** 先ほど言ったように予測可能な数値があればできるだけ入手して、県は2040年の姿を出している。ある程度色んな数値が出ている。

**事務局)** 今度おそらく2050年も出すと思う。

**委員)** 地域コミュニティがすごく薄れてきている。高齢者が増えていくこれからの社会にあっては不安がある。これだけ災害が増えてくると。

**委員)** 結局、家族の問題、コミュニティの問題、社会経済の問題。2050年を展望できるような資料があれば。

**委員)** 東播磨の総括、出来たことと出来ていないことの整理をする。

各市町の方で長期計画などは、どういう視点で計画を立てているかというようなデータを出していただく。

**委員)** 2050年をより身近に感じる手法としては、消滅可能性都市とかで有名になったデータがあるが、未来を描くかどうかはともかくとして、GIS(地理情報システム)などを使って、人口動態であれば、リアルに2050年頃の未来を、このままだとうこうなる、何もしないとうこうなるというデータを見える化するという意味では一つ考える余地がある。リーサスを使って、地図に、小地域をできるだけ見ていくと大きな変化のダイナミズムを我がこととして捉えることは出来る、そういうビジュアル的なデータをみんなで共有してわいわいがやがややっていけたら良い。

委員) リーサスというのは国が出しているデータベースだが、地図に落とすことが出来て、非常にカラフル。リーサスのデータでアンケートを取る時などに活用する。

委員) 国土交通省の国土グランドデザイン 2050 で東播磨地域などの1キロメッシュでのデータは見られる。

委員) こういう風にしたら良いというのを思い描いていただければと思います。

事務局) ありがとうございました。